

【 結 果 の 概 要 】

I 鳥取県の住みやすさについて

- 鳥取県に対する愛着や誇りに思う気持ちは、約7割の人が「感じている」と答えている。
- 鳥取県で、今暮らしている地域は、約6割の人が「住みやすい」と答えている。
- 豊かな自然環境に恵まれていると思う人が約9割と圧倒的に多く、また治安が良い、住民が親切で人と人との繋がりがあと思うと約6割の人が答えている。
- 生活の中で公共交通機関の整備は、約6割の人が「整っていない」と答えている。

II 鳥取県の施策の満足度と今後の優先度について

【豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる】

- 「農林水産・畜産業の若き担い手育成」「農業の活力増進」の農林水産・畜産関係、また「次世代エネルギーの推進」に『不満』を感じている割合が多い。一方で、「豊かな自然環境の保存・活用」「観光資源を活用した誘客の取組」「鳥取県周辺地域と連携した誘客の取組」等の自然と観光への取組に『満足』を感じている割合が多い。

（今後優先すべき重要度の高い項目）

- 「農林水産・畜産業の若き担い手育成」「農業の活力増進」「農林水産物の販売戦略」の農林水産・畜産関係の取組が優先すべき項目の上位を占めている。

【人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む】

- 「中山間地域の安心と元気をつくり出す」「女性が活躍できる社会に向けた取組」「若者の出会い、結婚応援の取組」に『不満』を感じている割合が多い。一方で、「安心して出産や子育てできる環境」に『満足』を感じている割合が多い。

（今後優先すべき重要度の高い項目）

- 「安心して出産や子育てができる環境づくり」「高齢者や障がい者が輝ける地域づくりを進める取組」「中山間地域の安心と元気をつくり出す取組」が優先すべき項目の上位を占めている。

【幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ】

- 「暮らしやすく、まちを元気にしていく取組」「働く場の確保」「誰もが能力を発揮できる雇用の実現」等に『不満』を感じている割合が多い。一方で、「他地域からの移住（転入）促進」「住み続けたい・帰りたい鳥取県の創造」「文化やアートを使った地域づくり」「スポーツの盛んな地域づくり」の取組に『満足』を感じている割合が多い。

（今後優先すべき重要度の高い項目）

- 「働く場の確保」「暮らしやすく、まちを元気にしていく取組」「住み続けたい・帰りたい鳥取県を創造する取組」が優先すべき項目の上位を占めている。

【県政のさまざまな取組】

- 「県内交通の高度化への取組」「子どもの学力向上のための取組」等に『不満』を感じている割合が多い。一方で、「健康を守り、医療体制を強化する取組」「災害に強いまちづくり・防災意識啓発にかかる取組」「地域犯罪や交通事故等を抑制・防止するための取組」に『満足』を感じている割合が多い。

（今後優先すべき重要度の高い項目）

- 「災害に強いまちづくり・防災意識啓発」「健康を守り、医療体制を強化」「県内交通の高速化」が優先すべき項目の上位を占めている。

Ⅲ 重点施策への関心・認識

<女性の活躍推進について>

- 「ワーク・ライフ・バランス」は約4割、「男女共同参画社会」は6割が「知っている」と答えている。
- 男女に関する役割などについて、約8割の人が「現実として家事や子育てが女性の役割となっていると思う」、約7割の人が「現実として介護が女性の役割となっていると思う」と答えている。
- 女性が出産後も子育てと仕事を両立するために行政が行うべき施策について、半数以上の人が「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備の手助け」「育児による離職者を再雇用した企業(雇用主)に対する経済的支援(補助金制度)」と答えている。
- 介護と仕事を両立するために行政が行うべき施策について、半数以上の人が「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備の手助け」「介護による離職者を再雇用した企業(雇用主)に対する経済的支援(補助金制度)」と答えている。
- ワーク・ライフ・バランスの実践を促す労働環境をつくるために行政が行うべき施策について、約7割の人が「ワーク・ライフ・バランスを実現するための労働環境整備の支援」と答えている。
- 男性の家事、育児、介護への積極的な参画を促進するために、行政が行うべき施策について約6割の人が「男性の家事・育児・介護への参画を当たり前のことと捉える社会全体の機運の醸成」と答えている。

<鳥取県の現状と目指す姿について>

- 鳥取県での暮らしの幸せの程度について、「普通」から「とても幸せ」が約8割である。
- 幸福度の判断で重視することは、約7割の人が「家計の状況」「自身の健康の状況」と答えている。
- 他の都道府県と比べた鳥取県の強みや良さについて、約5割の人が「自然環境に恵まれている」と答えている。
- 県が概ね10年の間に取り組んできた事項(施策の柱)の評価について、「安全安心で美味しい食の魅力を提供する「食のみやこ鳥取県」の推進と、農林水産業の展開」「人、物、情報の「大交流時代」」「「あんしん医療体制」構築と「健康づくり文化」の創造」を『評価する』という回答が多い。
- 概ね10年後(2030年頃)の鳥取県の将来は現在と比べて明るいと思うかについて、約5割の人が「わからない」、2割強の人が「どちらかといえば暗い」、2割弱の人が「どちらかといえば明るい」と答えている。
- 概ね10年後(2030年頃)を見据えたとき、鳥取県の将来について、どのような姿を目指していくことが望ましいかについて、約3割の人が「希望する働き方や子育て、健康や生きがいなど、県民の生活の質の向上」、約2割の人が「豊かな自然を活かしたゆとり・ぬくもりのある暮らしの推進」と答えている。
- 人口減少に係る対策として約4割の人が「社会減対策(転出の抑制:県内就職の促進等、若者の県内定着など)」、約3割の人が「自然減対策(出生数の増加:出会い・結婚～妊娠・出産～子育ての切れ目ない支援など)」と答えている。
- 人口減少による懸念事項について、約4割の人が「若者が減少して活気がなくなる(若者が減少しまちの賑わいが減少)」、約3割の人が「高齢化による医療・介護ニーズ増加と支え手の不足」と答えている。